

校長室だより 夢に向かって輝く児童の育成

No.54

令和2年12月1日 文責 校長 林 寛



今年も残すところあと1か月となりました。寒さが戻ってきて曇り空の日も多く、どんよりとした冬の空が広がっています。かぜの症状が出て、大事を取って欠席する子供も何人かいますが、登校できている子供たちは元気いっぱい、寒さに負けず、運動場に出てサッカーや縄跳び、一輪車などを楽しんでいます。新型コロナウイルス感染症予防のために、毎朝の検温やうがいや手洗い、マスクの着用の励行が、インフルエンザなど他の感染症の予防にも役立っているようです。引き続き学校と家庭の協力で子供たちを感染症から守っていききたいと思います。



冬休みに前に

クリスマスやお正月など子供たちが楽しみにしている冬休みがもうそこまで来ています。コロナ禍のために、例年とは少し違った冬休みになるかもしれませんが、子供たちの安全のためには、大人のサポートが欠かせません。裏面は、9月26日の佐賀新聞の記事です。夏休み中に発生した事件ですが、同じような事件は何度も繰り返されています。被害に遭う子供たちも中高生から小学生へと低年齢化している傾向があります。スマホゲームでの高額な課金によるトラブルもなくなりません。佐賀県教育委員会からも「SNSでの犯罪被害の現状と対応について」というリーフレットの配布がありましたが、各家庭でもゲーム機器を含むインターネットを使用する際のルール作りやフィルタリング機能の設定などに再度取り組んでいただきたいと思えます。

右の表は、リーフレットに示されていた「お子さんと一緒にチェックしてみましょう」から引用しています。(学校HPでカラー版を公開中)

- フィルタリングを設定し、家庭のルールを作っているか
- 接続するサイトやダウンロードするアプリは保護者が確認しているか
- 個人を特定される情報を書き込んでいないか
- 知らない人とSNSやメール等のやり取りをしていないか
- 裸や下着姿の写真は撮らない、撮らせないように指導しているか
- 他人のIDやパスワードを勝手に使わないよう指導しているか
- 利用時間等を決めているか
- 困ったことがあれば、必ず保護者に相談するようにしているか



進んで良い行動を

学校のホームページでは紹介していたのですが、ポイントカードがたくさん入ったケースを登校中に拾った5年生が、駐在所の井上さんに届けているところを見ました。あとから話を聞くと「落とした人が困っていると思って・・・」と言っていました。また、ばらばらだったトイレのスリッパに気づいて、並べ直している2年生の男の子も、次の人のことを考えて、笑顔で良い行動をとっていました。上級生のあいさつの声が大きくなって、それを下級生たちも真似しています。良い行動がじわじわと広がっているようです。



冬季服装について

11月下旬から冬の寒い気候になり、寒さが戻ってきました。今年の冬は「例年並み」と言われており、ここ数年が「暖冬」と言われていたことを考えると、寒く感じる日が増えそうです。例年、教室内では、防寒着を脱ぐように指導をしてきましたが、今年は、新型コロナウイルス感染症対策として、教室の換気を十分に実施していくようにしていくため、室内でもズボン等の防寒着の着用を認めることにしました。今後も新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、エアコン等を有効活用し、子供たちの健康面に配慮していきます。

裏面もあります

指導に関するアンケート

「教師の指導に関するアンケート」へのご協力、ありがとうございました。提出された物はすべて開封し、目を通しました。「体罰」についての回答は、「0」でしたが、指導についての疑問や不安を書かれたものがありましたので、説明等させていただきます。今後も体罰防止に努めていきます。気になることがあれば、ご連絡ください。

- 12/2 (水) 佐賀県学習状況調査 国算 (4~6年)
 3 (木) 佐賀県学習状況調査 社理 (6年)
 8 (火) 特別校時 (⑤時間授業) 14日 (月) まで
 16 (水) かぜインフルエンザ予防集会 (朝)
 18 (金) 特別校時⑤時間授業
 学級懇談会 15:10... 下学年 15:55... 上学
 年
 23 (水) 地区児童会 大そうじ

今後の行事予定

横浜・小4 女児連れ去り

横浜市で小学4年の女児(9)が連れ去られ、2日半後に保護された事件で、逮捕された男38は女児とオンラインゲームで知り合ったとみられている。ゲームの通信機能を使い未成年者を誘い出す事件は、過去に相次ぎ発生。インターネット上でのやりとりは把握が難しく、犯罪の温床となる懸念も指摘される。

▽接点

5日午前3時ごろ、東京都葛飾区の一軒家から走り去ろうとする車を、張り込んでいた捜査員が一言に取り囲んだ。後部座席にはおびえた表情の女児。神奈川県警は、運転席にいた大竹晃史容疑者を未成年者誘拐容疑で現行犯逮捕した。捜査関係者によると、女児は自宅で、親が使わなくなったスマートフォンをWiFiに接続。複数の参加者がグループに分かれて競い合うゲームで遊び、事件の数日前に大竹容疑者と知り合った。ゲームのチャット(会話)機能で誘い出された女児は2日夕、公園で遊んでいた友人たちと別れた後、容疑者と会い、車に乗せられた。親は2人が連絡を取っているのを知らなかった。



横浜・高層階に入る大竹晃史容疑者(警)14日

▽防止

結局、連れ去られた現場付近の防犯カメラに写った車のナンバーの一部などから大竹容疑者宅を突き止めた。女児にけがはなかったが、一刻も早い被害者の保護が求められる誘拐事件だけに、捜査幹部は「今までの捜査手法だけでは不十分だ」と危機感を募らせる。

ゲームの通信機能悪用

閲覧制限「万能ではない」

国民生活センターによると、保護者から全国の消費生活センターへのオンラインゲームに関する相談は昨年度、約2500件で過去最多となった。鹿児島県の少女が広島県の男の自宅に連れ込まれたほか、石川県の少女が行方不明になり三重県内で保護されるといった事件が発生。茨城県や兵庫県は少女も同様の被害に遭っている。

未成年のネットトラブルに詳しい全国ICTカウんセラー協会代表理事の安川雅史さん(54)は、子どもたちがスマホを使用する場合には閲覧対象を制限する「フィルタリング」の設定を推奨する。一方で「シートベルトを着けても交通事故だけが避ける可能性があるように、フィルタリングも万能ではない」と警鐘を鳴らす。

オンラインゲームでは、家族全員で楽しみながら注意点を共有するのが有効だとい、「子どもとのコミュニケーションを一番大切にしてほしい」と強調した。



引き続き、毎朝の登校前の健康観察と検温をお願いします。



東脊振小学校学校
 ホームページはこちら⇒

